

進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2010.11.29

No. 62

会社の価値は規模の大小ではない



私達はややもすると企業の規模で善し悪しを判断しがちです。規模の大きい会社に入った人は何となく鼻高になるかもしれませんが、規模の小さな会社に入った人は若干気後れを感じるかもしれません。

しかし、今の世の中大きい会社がずっと元気がよいかといえば必ずしもそうではありません。大きい会社ほど海外進出により、地方の工場の閉鎖ということがありがちです。また大きい会社ではそれだけ競争は激しく役職に就く機会は少なく、ずっと平社員であるということもありがちです。

一方小さな会社は、景気の動向に左右されやすいという面はあるかもしれませんが、特徴のあるしっかりした技術力を持っている会社は、それなりに伸びていく可能性もあります。そこでしっかり頑張れば、色々な仕事も覚え役職等に付く可能性もあり、それだけやりがいも出てくるでしょう。30年後にはかえって小さな会社に入った人の方が色々な面で伸びている可能性もあります。

小さな会社でも今求人をしている会社は、それなりに業績が伸びているからこそ出来るのです。本当に苦しい会社は求人は出来ないでしょう。

表面的な企業の大小にこだわらず、自分が入った会社で出来るだけ長く頑張ってみることが何よりも肝心です。そして会社を支えかつ発展させる一人となるよう頑張りたいものです。



狭い日本にこだわらない広い視野を

国際化とよく言われますが、日本人も以前に比べて多くの方が海外旅行をするようになりました。また企業から海外勤務を命じられて、海外で働く日本人も多くなっています。皆さんの多くも一生の間に何度か海外旅行をすることでしょう。海外で何年も生活する人も出てくるでしょう。

今の皆さんにはそんなことは想像が出来ないかもしれませんが。現在はテレビ等により日常に海外の様子を居ながらにして見る事が出来ますが、実際に自分で行くのとはその感想は全く異なります。狭いこの長野県の中で一生を過ごすだけではなく、一度海外へ出てみると、日本の良さや欠点が見えてきます。そうした経験を通して物の見方もまた少しずつ変わって来ます。

日本人はもっと海外に目を向け、海外と如何に関わるかを考えていかななくてはならないはずですが、多くの日本人は狭い日本にこだわりがちです。単なる観光ではなく、海外に出て活躍してくれる若者がもっと出ても良いと思います。

お金がなくとも海外に行きアルバイトをしながら外国語を覚えたり、海外を一人旅した教え子も過去にはいました。若いときは、若いときにしか出来ないそうした冒険をしても良いようにも思います。そうした経験を通して広い視野と国際的感覚を身につけた若者が一人でも育って欲しいものです。

